

令和3年度 第2回新見市地域公共交通会議 議事要旨

日 時 令和3年7月27日(火) 14:30~15:30

場 所 新見市役所 3階第1委員会室

会議の成立: 委員12名の内、出席11名により、本日の会議は成立する。

次 第

1 開 会

2 委員紹介

3 会長挨拶

4 報告事項

(1) 新見市地域公共交通計画策定ニーズ調査について

(2) 新見市予約型区域運行実証運行の実施について

5 その他

・市街地循環バス「ら・くるっと」乗車30万人突破記念事業実績について

・JR芸備線の利用促進の申し入れについて

6 閉会挨拶

令和3年度第2回新見市地域公共交通会議 議事録
(令和3年7月27日(火) 14:30~15:30、新見市役所3階第1委員会室)

■ 1. 開会

司 会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から第1回会議を書面開催としている。
本日が本年度初めての対面での会議となる。

■ 2. 委員紹介

始めに新任委員並びに専門員を紹介する。
只今より開会する。

■ 3. 会長挨拶

今年度第2回目の新見市地域公共交通会議ですが、第1回目を書面開催としたので、皆さんと顔を合わせて議論するのは本日が最初となる。

本日は、報告事項が2件。報告事項とあるが、新見市に新しい地域公共交通計画を策定する第一歩目のアンケート調査など、ニーズ調査の実施についてである。非常に重要な、新しいステップに入っていくので、いろいろ意見を出してほしい。よろしく願います。

■ 議長選任

司 会：新見市地域公共交通会議要綱第5条4項の規定より橋本会長を議長に選任する。

■ 4. 報告事項

議 長：(1) 新見市地域公共交通計画策定ニーズ調査について説明を求める。

事務局：新見市地域公共交通計画策定ニーズ調査について説明する。(資料1、資料2)

議 長：(1) 新見市地域公共交通計画策定ニーズ調査の資料1について何か質問等はあるか。

委 員：乗合タクシーとはどのようなものか？

事務局：「(2) 新見市予約型区域運行実証運行の実施について」で説明する。

議 長：住民意見交換会を9月~10月に実施予定だが、実証運行も9月からの実施予定である。実証運行に住民意見交換会の意見の反映が難しいのでは？

事務局：資料では並行してが、これは準備期間を含めたものである。住民意見交換会でご意見をいただき、実際に実証運行する地域の結果やご意見を計画策定や今後の運行に反映させたいと考えている。

委 員：住民意見交換会の実施範囲はどの程度の規模か？

事務局：住民意見交換会の実施方法は、地域運営組織単位を中心に現在検討中である。

議 長：現時点で検討中とのとこだが、この件について協議する場は今しかない。委員はこの会議で決定した内容を地域の方々にお知らせする。詳しく説明できないと委員も困るのではないか？

事務局：住民意見交換会の実施方法は、早急に組み立てし、また別に委員の皆さんに、何らかの形でお配りし、ご意見をいただこうと考えている。

議 長：是非とも願います。委員の皆さんは、地域で声かけをお願いする。

他に何かあるか？

<・・・特になし>

(1) 新見市地域公共交通計画策定ニーズ調査の資料2について何か質問等はあるか。

議長：1枚目の注意書きのところは、網がけで色を付けているが、本文には網がけで色を付けた場所がない。印刷の関係なのか？注意書きの表示と本分の表示を統一したほうがよい。

また、問1の「車・バイクの運転」のところでは、「1つ選んで○をつけてください。」となっているが、車もバイクも両方運転する方はどう回答するのか？「車を運転する」に○をするのか？

タクシーなどの設問は今回なくてよいか？タクシーは対象外か？

事務局：今回は、乗り合いバスを対象としており、タクシーは対象外としている。

委員：アンケートは、3000世帯に実施するがこれは多いのか少ないのか？根拠は？

(株)パワート：3000世帯に配布した時の回収率を30%とし、900票の回収を想定。統計的には一般的なアンケートでは400票ほどで十分と言われている。地域別の分析も考え、今回中学校区単位で5地区の分析を行う。地域ごとに50～100票ほど必要だが、地域ごとの人口割合のみで算出すると人口の少ないエリアでは票数が60票程度と少ない。そのため少ないエリアには配布数を増加し計算した結果が3000世帯となった。

議長：よく1世帯2通配布するが今回は？

事務局：今回は1世帯1通の配布としており、その世帯で公共交通を利用される方にお答えいただく。

議長：貨客混載といった人以外の運送も検討するならその設問が必要である。時間帯について、細かく分析するのであれば、そのような設問が必要である。

今は公共交通機関へ軸足を置いた設問になっているが、このアンケートと調査票がこれから策定する計画の思想を表す。この設問で問題がないかを確認したい。

(株)パワート：貨客混載などの新しい取り組みは、アンケートでは質問しきれていないが、この調査結果を基に地域運営組織や交通事業者などへの聞き取り調査や住民意見交換会で、アンケート調査の結果が実態を正確に反映しているか？他に何かお困りごとはないか？などの聞き取りを行い、可能な限り掘り起こしをしていく。

それと平行して、それぞれの地域ごとの課題。福祉とか教育とか他の分野に跨がる課題についても市内の関係部局等に聞き取り等していきたい。

このアンケートは、公共交通に特化した内容なので、公共交通の改善して欲しいところについては問5、問6、問7の部分で具体的にお答えいただく。新しい取り組みについては、アンケート結果を基にご意見をいただき計画に反映していきたい。

議長：アンケート調査の他に平行して行う意見交換会で詳しい内容が出てくることを期待してよいか。

事務局：そのように進めたい。

委員：バス21系統、市営バス12路線の乗降調査を実施したと言われたが、実施したのか？

事務局：バス21系統については、備北バスさんが実施した結果を使用する。市営バス12路線の乗降調査は実施している

委員：市の職員が利用しているお客さんに直接意見を聞くとか、現場の意見を聞くとか、実態を把握するためバスに乗るなど現場の声を反映して欲しい。

住民意見交換会は細かい地区で大勢の意見を聞くと意味があるが、漠然と大きな規模で実施するなら、なかなか意見が出てこない。思っていることが伝わらない気がする。そのあたりをどう思われるか？

事務局：職員がバスに乗車しての聞き取りは行っていない。利用者の意見は、バス利用者である高校生、大学生、ふれあいバスの利用者に個別にアンケート調査を実施した。一般の方で病院や買い物に利用している方の聞き取り調査はできていない。ご意見をいただいたので、検討したい。

議長：資料1、資料2について、新しいご意見、お気づきの点があるかないようなので、ここまでにする。

議長：(2) 新見市予約型区域運行実証運行の実施について説明を求める。

事務局

(2) 新見市予約型区域運行実証運行の実施について説明する。

議長：(2) 新見市予約型区域運行実証運行の実施についての先の質問への回答を求める。

事務局：報告事項(2)ですが、本年度から交通再編に向けての実証運行に取り組みたい。本市では、JR、路線バス、市営バス、ふれあいバスが相互に連携しあう交通ネットワークを構築している。いずれも利用者が少なく収支率も低迷している。効率的で持続可能な利用しやすい交通体系の構築に向けて、見直しが必要である。まず、令和3年度は予約型区域運行の乗合タクシーを導入していきたい。実証運行の実施地域や運行日数、運行体系、運賃等については、これから詳細に検討を行い、9月議会にその予算案を提出する。予算案について議会で承認されたら早急に運行内容を地域公共交通会議で審議いただく。本会議で承認後、自家用有償運送の変更手続きを経て実証運行を行う。

議長：委員から何かあるか。

委員：区域運行の区域とは？

事務局：現時点でお示しできるものはない。9月議会に予算案を提出し、認められた後にこの会議で詳しくご協議いただく。

委員：まだ何も決まってないのか？それともまだ公表できないのか？

事務局：具体的なことを申し上げられなくて申し訳ないが、市が考えているだけでは進めていくことができない。今後いろいろな調整が必要である。詳しい内容は次回ご協議いただきたい。これから実証運行に取り組んでいくことのご報告とさせていただきます。

議長：何かよく分からないが、今までと違った予約型区域運行で実証運行をしたいという宣言をされたということです。

言えないこともあると思いますが、議論するためにもできる限り情報は出していきたいと思う。

委員：議会へ提出するにあたって予算の詰めをしているところです。はっきりしたことお伝えできないのは申し訳ないが、今行っているデマンド型のふれあいバスはエリア内だけを移動し診療所などに行くバスであるが、今後はそのエリアを豊永とか哲多・哲西そういった大きい枠で捉え、住民の方が地区外の中心地市街地へ出かけられるようなことを考えている。

ただし、実証運行を実施できるのは、1から2地区と考えている。

議長：今までも地区の中を行き来していた区域運行はあったが、今考えているのは、少し足を伸ばして中心部まで来られる位の区域運行を考えたいということである。

ご理解をいただけたらと思う。

他に何かないか？

これで報告事項は、終了とする。

■ 5. その他

議長：事務局の方で何かあるか？

事務局：2点報告する。1点目は、2月に実施した、市街地循環バス「ら・くるっと」乗車人員30万人突破記念事業の実績を報告する。2月13日を「ら・くるっと」無料乗車デーとして実施し、約200人の方にご乗車いただいた。通常は100人以下だが、当日は約2倍利用があった。サンパーク新見店においては、「ら・くるっと」の実車展示を行い、乗り方教室を行ったところ大変盛況でした。また、併せて小・中学校生から応募のあった「ら・くるっと」のイラスト展を開催し、会場内とバスの車内に多数展示した。

次世代の利用促進に繋がりたいと備北バスさんと共同でイベントを実施し、非常に沢山のお子さんや親御さんにご来場いただいた。子どもたちが幼少期か「ら・くるっと」や公共交通に興味を持つきっかけになった。

今年度は、「ら・くるっと」が運行開始から10周年となる。本年度中に備北バスさんとイベントなどの利用促進の協議をしている。具体的な内容が決まりしだい会議でご報告なりご協議いただく。

2点目は、芸備線の利用促進について、JR西日本旅客鉄道（株）さんから申し入れをいただき、JR西日本さんをはじめ、岡山県さん、広島県さん、庄原市さん、新見市とで利用促進についての検討を行うことになった。今後更なる利用促進に向けて様々な検討を行う。

以上報告する。

議長：「ら・くるっと」の件と芸備線の件の報告があった。

議長：他に何かあるか？

委員：伯備線で、本年3月に新見駅から備中高梁駅までの間、ICOCAが利用可能になった。ICOCAの通勤定期や通学定期を利用していただきたい。

議長：JRさんと県を含む自治体が利用促進をやっていくので、皆さんも周りの人に、芸備線の利用を促進するよう努めていただきたい。

「ら・くるっと」については、今年暦で30万人と10周年が重なってくるということで、イベント盛りだくさんとなる。よろしく願います。

他に何か話題あるか？

無いようなので、6の閉会挨拶の方へ進んでいただければと思う。

■ 6. 閉会

閉会挨拶（副会長）：慎重審議いただいた。私が委員になって11年くらいだが、1年間に5回の交通会議を計画したのは初めてのことだ。公共交通のマイナーチェンジやフルモデルチェンジなど計画しており、大変な年だが今後ともよろしく願います。

司会：これにて閉会とする。